

# 平成29年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた 学習評価の進め方

## 中学校 社会科

この資料は、平成29年改訂学習指導要領（以下、学習指導要領）に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）の考え方を基に、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における、指導と評価の一体化に向けた取組の推進にぜひお役立てください。

### 目次

1	学習評価の基本的な考え方	1
2	学習評価の観点	1
3	中学校社会科の教科目標、評価の観点及びその趣旨	2
4	各分野の目標、各分野の評価の観点及びその趣旨	3
5	中学校社会科における内容のまとめ、内容のまとめごとの評価規準	5
6	中学校社会科における学習評価の進め方	6
7	中学校社会科における学習評価の事例	15
8	Q & A	23

## 1 学習評価の基本的な考え方

### ○学習評価とは

児童生徒の資質・能力を育成するために、目標に照らして児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握すること

### ○学習評価を行う上で重要なポイント

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価を行うに当たっては、児童生徒一人一人の資質・能力を育成できるようにすることが大前提です。そのためには、児童生徒の進歩の状況や教科等の目標の実現状況を適切に把握することが必要です。把握した内容は、児童生徒にフィードバックして児童生徒の学習改善につなげられるようにし、教師は自身の指導改善につなげます。このことなくして児童生徒一人一人の資質・能力の育成は望めません。つまり、学習評価を行う上で、「普段の授業の不断の見直し」が不可欠だと言えます。

### ○学習評価の機能

指導に生かす評価・・・児童生徒一人一人の学習状況を把握し、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

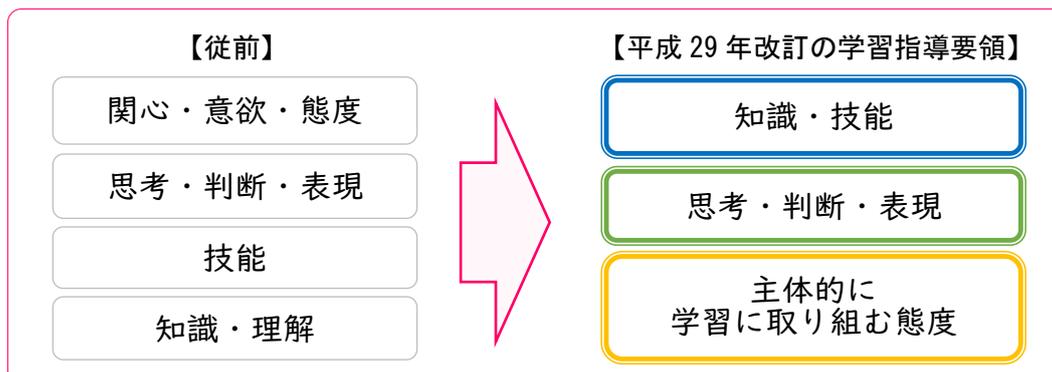
指導に生かす評価の場面は、随時存在します。児童生徒の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

記録に残す評価・・・観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと

記録に残す評価の場面は、毎時間設定する必要はありません。児童生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元や題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童生徒の観点別学習状況を把握し、記録します。

## 2 学習評価の観点

学習指導要領では、各教科等の目標や内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に整理されました。目標や内容の整理を踏まえ、小・中・高等学校の各教科を通じて、評価の観点も4観点から3観点到整理されました(下図参照)。



### 3 中学校社会科の教科目標、評価の観点及びその趣旨

#### 1 中学校社会科の教科目標

学習指導要領において、全ての教科の目標は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。中学校社会科の目標は次のとおりです。

<p>社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。</p>	
<p>(1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 100%;">知識及び技能</div>
<p>(2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<div style="border: 2px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 100%;">思考力、判断力、 表現力等</div>
<p>(3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<div style="border: 2px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 100%;">学びに向かう力、 人間性等 ※</div>

※(3)の「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取することができる部分と、②観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれない部分があるとされています。そのため、評価の観点は、「主体的に学習に取り組む態度」と示されています。

#### 2 評価の観点及びその趣旨

中学校社会科における評価の観点及びその趣旨 (p. 2)、各分野の目標 (p. 3)、各分野の評価の観点及びその趣旨 (p. 4) は、以下のとおりです。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

## 4 各分野の目標、各分野の評価の観点及びその趣旨

### 1 各分野の目標

地理的分野	(1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	(3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深める。
歴史的分野	(1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	(2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	(3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。
公民的分野	(1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	(2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	(3) 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が生徒同士で主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

## 2 各分野の評価の観点及びその趣旨

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野	我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
歴史的分野	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
公民的分野	個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めているとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	現代の社会的事象について、国家及び社会の担い手として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

## 5 中学校社会科における内容のまとめ、内容のまとめごとの評価規準

### 1 中学校社会科における内容のまとめ

内容のまとめとは、学習指導要領に示された「第2章 第2節 各分野の目標及び内容（2）内容」の中項目に当たります。以下の表の □ 枠で囲まれた部分が内容のまとめです。

#### 地理的分野における項目構成

大項目	A 世界と日本の地域構成	B 世界の様々な地域		C 日本の様々な地域			
中項目 (内容のまとめ)	(1)地域構成	(1)世界各地の人々の生活と環境	(2)世界の諸地域	(1)地域調査の手法	(2)日本の地域的特色と地域区分	(3)日本の諸地域	(4)地域の在り方

#### 歴史的分野における項目構成

大項目	A 歴史との対話		B 近世までの日本とアジア			C 近現代の日本と世界	
中項目 (内容のまとめ)	(1)私たちと歴史	(2)身近な地域の歴史	(1)古代までの歴史	(2)中世の日本	(3)近世の日本	(1)近代の日本と世界	(2)現代の日本と世界

#### 公民的分野における項目構成

大項目	A 私たちと現代社会		B 私たちと経済		C 私たちと政治		D 私たちと国際社会の諸課題	
中項目 (内容のまとめ)	(1)私たちが生きる現代社会と文化の特色	(2)現代社会を捉える枠組み	(1)市場の働きと経済	(2)国民の生活と政府の役割	(1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	(2)民主政治と政治参加	(1)世界平和と人類の福祉の増大	(2)よりよい社会を目指して

### 2 内容のまとめごとの評価規準

資料1のように、学習指導要領の各分野の目標及び内容に示された指導事項を参考に、主に文末表現を書き換えることで内容のまとめごとの評価規準を作成することができます。なお、「参考資料」の巻末には、「内容のまとめごとの評価規準（例）」が示されています。

#### 各分野の目標及び内容（地理分野 A (1)の場合）

##### A 世界と日本の地域構成

##### (1) 地域構成

次の①と②の地域構成を取り上げ、位置や、位置や分布などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

##### ① 世界の地域構成 ② 日本の地域構成

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解すること。

(イ) 我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること。

#### 内容のまとめごとの評価規準

#### 文末表現を書き換える

知識・技能	思考・判断・表現
<ul style="list-style-type: none"> <li>緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。</li> <li>我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>

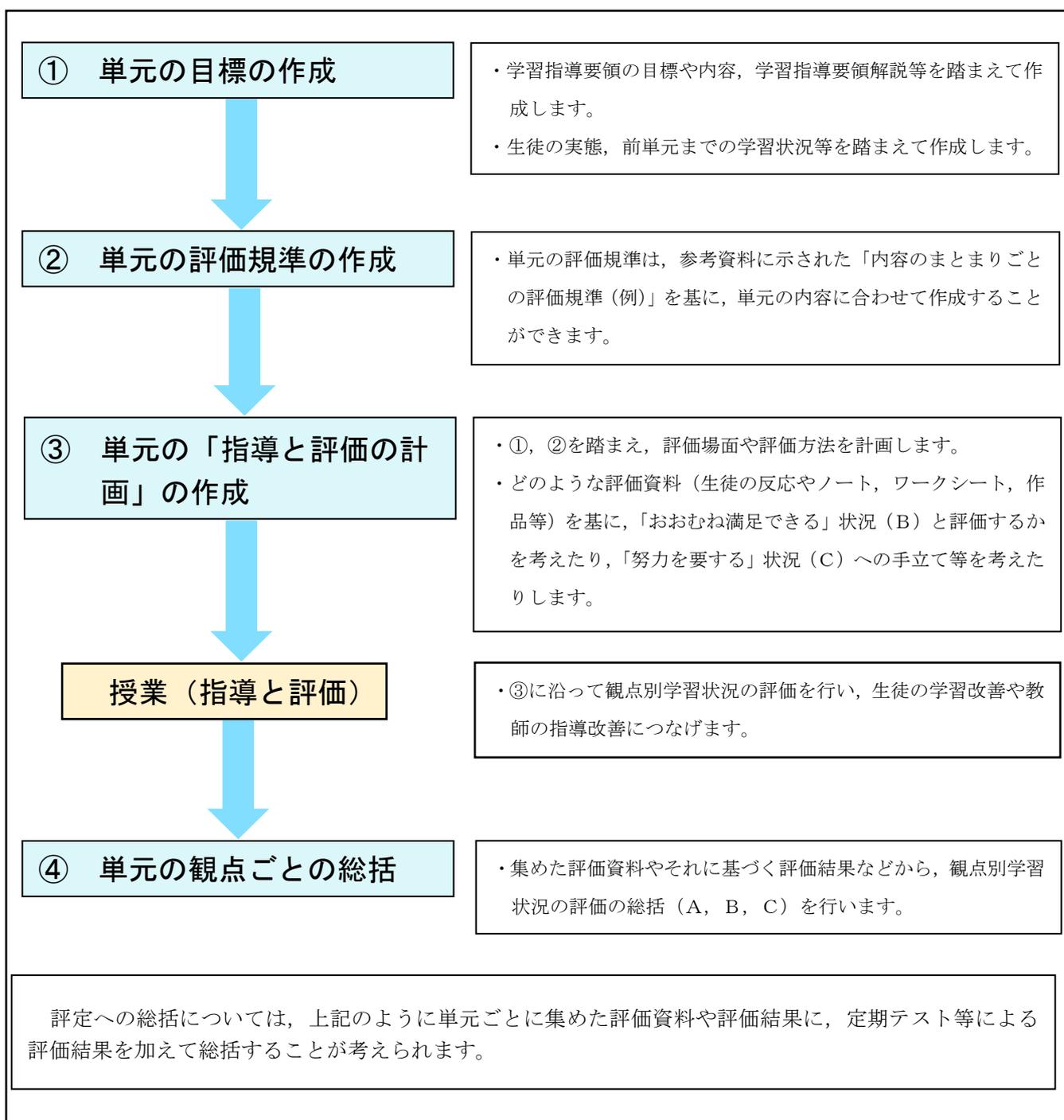
資料1 内容のまとめごとの評価規準の作成

## 6 中学校社会科における学習評価の進め方

観点別学習状況の評価を行うに当たっては、まず学習指導要領において、教科目標、各分野の目標、各分野の評価の観点及びその趣旨を踏まえ、年間の指導と評価の計画を確認することが大切です。その上で、内容のまとまりごとの評価規準を踏まえて、進めていくことになります。

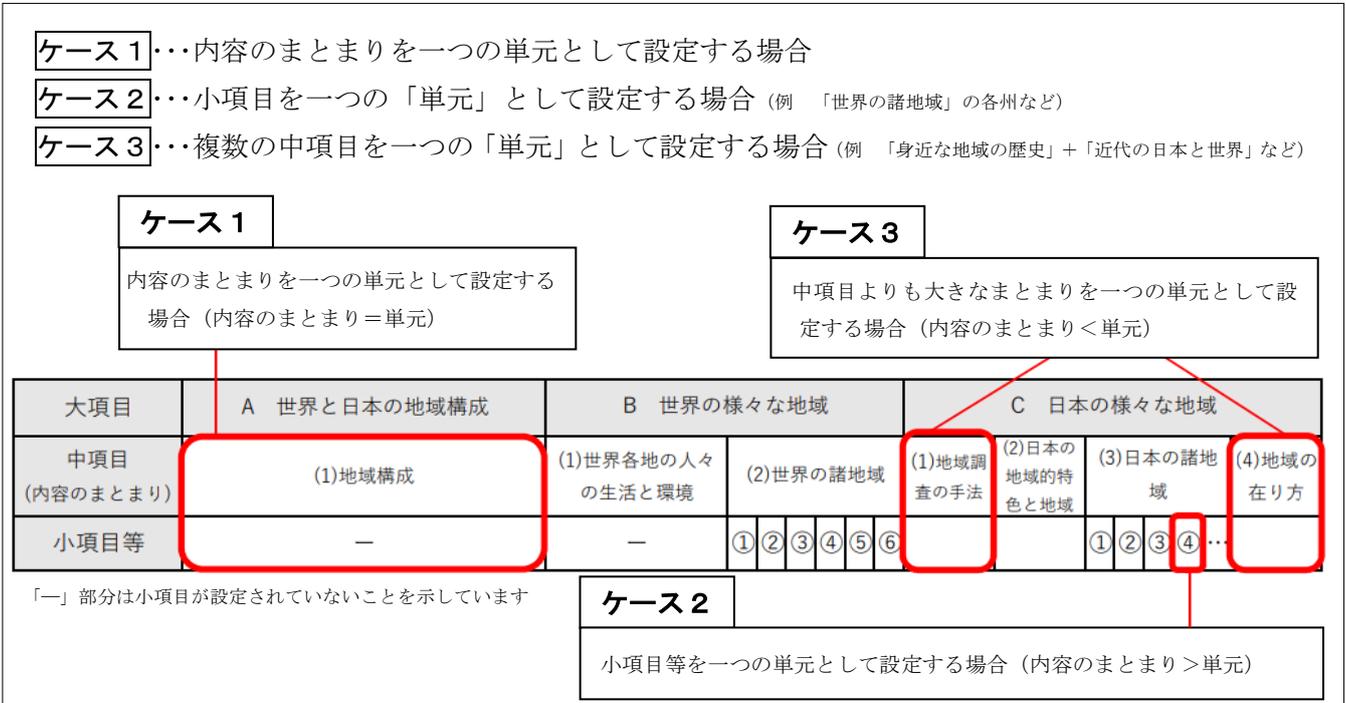
単元における観点別学習状況の評価の進め方は、基本的に次のような流れになります。【学習評価の進め方】の詳細については、次頁以降に紹介していますので、参考にしてください。

### 【学習評価の進め方】



## ① 単元の目標の作成

各分野及び内容のまとまりごとの目標と評価規準を踏まえて、単元を設定し、単元の目標を作成します。その際、学習内容のまとまりを見だし、適切に単元を設定することが大切です。なお、単元の設定の方法としては、以下の**ケース1**、**ケース2**、**ケース3**が考えられます。



資料2 地理的分野を例にした「内容のまとまり」と「単元」の大小関係について

本資料では、中項目A(1)「地域構成」を、時数、内容的に一つの単元として適切と考えて、**ケース1**に当てはめて、単元に設定しました。その際、参考資料の巻末にある「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を参考にして、**単元の目標**を次のように作成しました。

また、**ケース2**、**ケース3**で、学校、地域、生徒の実態等に応じて単元を設定する場合には、「内容のまとまりごとの評価規準(例)」の表現を参考に、主に学習指導要領解説の記述を用いて、記載事項を細分化したり、並列併記したりして、単元の目標を作成することができます。

### 単元の目標

- ・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解する。
- ・我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解する。
- ・世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・世界と日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

## ② 単元の評価規準の作成

単元の評価規準は、作成した**単元の目標**を基にして、主に、文末表現を書き変えて作成することができます（本資料 p. 5 資料 1 参照）。

### 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。</li> <li>我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界と日本の地域構成についてよりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究、<u>解決しようとしている</u>。</li> </ul>

下線部は、**単元の目標**（p. 7）の文末表現を書き変えた部分です。

**ケース1**の場合には、「内容のまとめりごとの評価規準（例）」の記載事項を基に、評価規準を作成することが考えられます。**ケース2**の場合には、中項目の「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を基に、それを細分しつつ具体化することで評価規準を作成することが考えられます。**ケース3**の場合には、それぞれの中項目の「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を基に、それらを並列併記して評価規準を作成することが考えられます。いずれの場合も、下記の**各観点の評価規準作成に当たっての留意点**を基に、単元の目標と「内容のまとめりごとの評価規準（例）」の考え方、評価の観点及びその趣旨などを踏まえて、単元の評価規準を作成することが大切です。

### 各観点の評価規準作成に当たっての留意点

観点	作成の際の留意点
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだ内容が、他の学習や生活の場面でも活用できる「生きて働く」知識や技能となるように、以下の点を考慮して評価規準を設定しましょう。</li> <li>(1) 「知識」については、社会の中で汎用的に使うことができる概念等に関わる知識が獲得できるように設定しましょう。</li> <li>(2) 「技能」については、「社会的事象等について調べまとめる技能」（『情報を収集する技能』、『情報を読み取る技能』、『情報をまとめる技能』）を身に付けることができるように設定しましょう。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元において、それぞれの「社会的な見方・考え方」を視野に、具体的な「視点」（例えば、『大陸と海洋の分布に着目して』、『時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して』）等を組み込んだ評価規準を設定しましょう。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」を念頭に評価規準を設定しましょう。また、中項目や複数の中項目にまたがる単元を設定して評価するなど、ある程度長い区切りの中で評価することも考えられます。</li> </ul>

### ③ 単元の「指導と評価の計画」の作成

単元の目標と単元の評価規準を作成した上で、「指導と評価の計画」を作成していきます。作成の際には、以下のアとイを踏まえて、生徒や学校、地域の実態を踏まえて作成を行うことが大切です。

#### ア 単元の「指導と評価の計画」の作成に際しての留意点

- ・本資料では、「指導に生かす評価」を学習改善につなげる評価、「記録に残す評価」を評定に用いる評価と表記しています。

- ・単元の「指導と評価の計画」に、学習改善につなげる評価と評定に用いる評価を位置付けましょう。
- ・学習改善につなげる評価に重点を置いて、日々の授業の中で行い、生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが大切です。
- ・単元の学習過程において、学習改善につなげる評価を行い、生徒が学習状況の改善を図る機会をもった上で、評定に用いる評価を行うように計画することが大切です。
- ・評定に用いる評価は、毎回の授業ではなく、原則として単元のまとまりごと等に、それぞれの観点の実現状況を把握できる段階で評価を行うなど、その場面を精選することで、教師が一層指導に傾注できるように工夫することが大切です。

#### イ 各観点の評価のポイント

	評価の内容	具体的な生徒の姿(例)
知識	各分野において習得すべき知識に加えて、事象等の特色や意味、理論などを含めた、社会の中で汎用的に使うことのできる重要な概念を獲得しているかどうかを評価します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の宗教の分布について、適切にワークシートに記述できている姿</li> <li>・「明治維新が、日本の近代国家の基礎を整えていく過程であったこと」について、適切な用語を用いて、短い文章にまとめることができている姿</li> <li>・三審制について、正しく説明できている姿</li> </ul>
技能	「社会的事象等について調べまとめる技能」(『情報を収集する技能』、『情報を読み取る技能』、『情報をまとめる技能』)を身に付けているかどうかを評価します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観写真や雨温図等を基に、情報を収集し、必要な情報を読み取っている姿</li> <li>・資料を基に、そこから読み取った情報を適切に文章化、グラフ化、図表化している姿</li> <li>・分かり易くまとめるために、資料を活用している姿</li> </ul>
評価方法	主に、次の方法で評価資料を収集することが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ワークシートやノート等の記述内容による見取り</li> <li>■ペーパーテストによる見取り</li> </ul> ・事実的な知識の習得を問う問題 ・知識の概念的な理解を問う問題 など	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題(問い)」を追究、解決していく学習過程の中で評価するなど、「思考・判断・表現」の観点との関係を踏まえて評価を行うことが大切です。</li> <li>・学習改善につなげる評価を日々の授業の中で行うことが大切です。その上で、評定に用いる評価は、主に授業末、単元内の適切な段階、単元末で評価を行うことが考えられます。小テストや定期テストなどだけではなく、生徒が文章で説明をしたり、グラフや図表で表現したりするなど、実際に知識や技能を用いる場面を適切に設定することが大切です。</li> </ul>	

	評価の内容	具体的な生徒の姿(例)
思考・判断・表現	<p>「社会的な見方・考え方」を働かせ、習得した知識及び技能を活用しながら考察、構想し、それらを表現できているかどうかを評価します。主に、以下の点を評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察しているか。</li> <li>・社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したり、選択・判断したりしているか。</li> <li>・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国・四国地方の地域的特色について、経済面や環境面等から考えたことを、図や文章、ウェビング図やベン図などを用いてまとめている姿</li> <li>・「近世」という時代の特色を考察するため、これまで獲得した知識を組み合わせたり、その時代の傾向を見いだしたり、共通点や相違点を考えたりして、その結果を表現している姿</li> <li>・国民の政治参加の意義について、グループで話し合い、クラスで議論している姿</li> </ul>
評価方法	<p>主に、次の方法で評価資料を収集することが考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ワークシートやノート等の記述内容の見取り</li> <li>■授業中の発言や話し合いなどの活動の様子の見取り</li> <li>■ペーパーテストによる見取り</li> </ul>	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識及び技能を活用して「課題(問い)」を追究、解決していく学習過程の中で評価するなど、「知識・技能」の観点との関係を踏まえて評価を行うことが大切です。</li> <li>・学習改善につながる評価を日々の授業の中で行うことが大切です。その上で、評定に用いる評価は、主に単元末や単元内の適切な段階で評価を行うことが考えられます。習得した知識及び技能を活用して課題を考察し、その結果を表現するなどの場面を適切に設定することが大切です。</li> </ul>	

	評価の内容	具体的な生徒の姿(例)
主体的に学習に取り組む態度	<p>地理的分野</p> <p>各分野に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしているかどうかを評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地と日本の生活の様子を比較して、問いを見いだしたり予想したりしている姿</li> <li>・推移や変化、影響などに着目して、近世の社会の変化の様子から、次の学習へのつながりを見いだそうとしている姿</li> </ul>
	<p>公民的分野</p> <p>現代の社会的事象について、国家及び社会の担い手として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしているかどうかを評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習後、「これからも問い続けていきたいこと(追究していきたいこと)」を挙げるとともに、その理由や社会的意義について記述している姿</li> </ul>
	<p>上記と併せて、①粘り強さと②自己調整の二つの側面から年間を通じて評価を行います。</p>	
評価方法	<p>主に、次の方法で評価資料を収集することが考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ワークシートやノート等の記述内容の見取り</li> <li>■授業中の発言や話し合いなどの活動の様子の見取り</li> <li>■生徒による自己評価や相互評価等の状況の見取り</li> </ul>	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習改善につながる評価を日々の授業の中で行うことが大切です。その上で、評定に用いる評価は、ある程度長い区切りの中で評価を行うことが考えられます。単元の始めに「見通しを立てる場面」、単元末に「学習を振り返る場面」を設定したり、適宜、「教師や他の生徒による評価を伝える場面」を設定したりすることも有効です。その際、単元の学習内容を見通し、学びの歩みを振り返ることのできるワークシート等を活用することで、評価資料を集めることも有効です。</li> </ul>	

本資料では、ア、イを踏まえて、単元「地域構成」について、単元の「指導と評価の計画」を、次のように作成しました。

単元の「指導と評価の計画」(全 12 時間)

●…学習改善につなげる評価

○…評定に用いる評価

	学習活動	評価の観点			評価規準 (1 単位時間における「おおむね満足できる」状況 (B) と判断する生徒の学習状況を示しています。)
		知	思	態	
単元の導入 (1 時間)	<p>【ねらい】世界と日本の地域構成について、見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p><b>単元を貫く問い</b> 「どうすれば、世界に向けて日本の姿を分かりやすく伝えることができるのだろうか」</p>				<p>● ・小学校での学習を踏まえつつ、単元を貫く問いに対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p>
小単元 1 (5 時間)	<p>【ねらい】位置や分布などに着目して、世界の地域構成の特色を多面的・多角的に考察し、表現することを通して、世界の地域構成を大観し理解する。</p> <p><b>小単元の学習課題</b> 「世界の国々の位置を分かりやすく表すには、どのような方法があるのだろうか」</p> <p>① <b>第 1 時の課題</b>「地球上の大陸と大洋はどのように分布しているのだろうか」について、資料を活用して考察し、WS に記入する。</p> <p>② <b>第 2 時の課題</b>「世界の様々な国の国名には、どのような特徴があるのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を WS に記入する。</p> <p>③ <b>第 3 時の課題</b>「世界の国々や都市の位置は、どのようにして表せばよいのだろうか」について、緯度と経度に着目して考察し、WS に記入する。</p> <p>④ <b>第 4 時の課題</b>「様々な世界地図にはどのような特徴があるのだろうか」について、資料を活用して話し合いを行い、考察したことを WS に記入する。</p>	●	●	●	<p>● ・資料から学習上の課題の解決につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>● ・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取り、生徒同士で話し合った内容をまとめている。</p> <p>● ・資料から学習上の課題の解決につながる情報を適切に読み取り、様々な国々の位置を緯度と経度を用いて適切に記入している。</p> <p>● ・第 3 時の課題について、緯度と経度に着目して考察し、結果を表現している。</p> <p>● ・第 4 時の課題について、世界地図や地球儀の特徴を理解し、使用目的に応じた世界地図を選び、その理由を説明している。</p> <p>(知識・技能) 学習改善につなげる評価</p>

事例 1

(pp. 15-16)

	<p>⑤ <b>小単元の学習課題</b>について、学習成果を総合・活用して「知識・技能」「思考・判断・表現」を問う小テストを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>単元を貫く問い</b>との関わりを確認する。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界の国々の位置や分布についての基本的な事項を理解している。</li> <li>・ 小単元の学習課題について、位置や分布に着目して考察し、その結果を表現している。</li> <li>・ 小単元の学習を振り返り、気付いたこと、更に調べたいことなどを整理し、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。</li> </ul>
<p>【ねらい】位置や分布などに着目して、世界の地域構成と関連付けるなどして、日本の地域構成の特色を多面的・多角的に考察し、日本の地域構成を大観し理解する。</p> <p><b>小単元の学習課題</b></p> <p>「ALTの先生に、日本の位置や領域を分かりやすく伝えるには、どのように説明すればよいだろうか」</p>				
<p>小 単 元 2  (5 時 間)</p>	<p>① <b>第1時の課題</b>「日本の位置は、緯度と経度を用いるとどのように表すことができるのだろうか」について、資料を活用して考察し、WSに記入する。</p> <p>② <b>第2時の課題</b>「世界の国々と日本の時刻が異なるのはなぜなのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合いを行い、その結果を発表する。</p> <p>③ <b>第3時の課題</b>「日本の領域と世界の国々の領域を比べると、どのような特色があるのだろうか」について、資料を活用して考察し、WSに記入する。</p> <p>④ <b>第4時の課題</b>「日本を区分するには、どのような方法があるのだろうか」について、資料を活用して考察し、WSに記入する。</p> <p>⑤ WSに大まかな日本地図を描き、その上に各時の学習内容を書き加えて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各時の学習内容を踏まえて、<b>小単元の学習課題</b>「ALTの先生に、日本の位置や領域を分かりやすく伝えるには、どのように説明すればよいだろうか」について、WSに記入する。</li> <li>・ <b>単元を貫く問い</b>との関わりを確認する。</li> </ul>	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料から学習上の課題の解決につながる情報を読み取り、結果を適切に記入している。</li> <li>・ 時差についての基本的な考え方を理解し、WSの課題に対して適切に記入している。</li> <li>・ 第2時の課題について、世界の国々と日本との時差に着目して考察し、生徒同士で結果を表現している。</li> <li>・ 資料から学習上の課題の解決につながる情報を適切に読み取っている。</li> <li>・ 第3時の課題について、領域の範囲や変化に着目して考察し、結果を表現している。</li> <li>・ 資料から学習上の課題の解決につながる情報を適切に読み取り、結果を適切に記入している。</li> <li>・ 日本の位置や分布について、小単元の学習内容を基に適切に絵と文章で説明している。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・ 小単元の学習課題について、周辺の海洋や国土を構成する島々の位置、領土をめぐる問題などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>(思考・判断・表現) 評定に用いる評価</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小単元の学習を振り返り、気付いたこと、更に調べたいことなどを整理し、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。</li> </ul>
<p><b>事例2</b> (pp. 17-18)</p>				

単 元 の ま と め  (1時間)	<p>【ねらい】・単元を貫く問いについて、これまでの学習内容を踏まえて、世界と日本の地域構成の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・単元を通して学んだことを振り返るとともに、次の単元の学習への見通しを立てる。</p> <p>&lt;課題1&gt; 単元を貫く問い「どうすれば、世界に向けて日本の姿を分かりやすく伝えることができるのだろうか」について、自分の考えをまとめよう。</p> <p>&lt;課題2&gt; ① 単元の学習を振り返り、「よりよい社会」の実現に向けてこれからも考えていきたいことを記入しよう。 ② 単元の学習を振り返り、今後の学習や生活に生かしたいことを記入しよう。</p>			
	<p>&lt;課題1&gt;について 単元を貫く問いを確認し、小単元2までの学習を振り返り、世界と日本の地域構成とを比較するなどして、世界と日本の地域構成の特色をWSなどにまとめる。</p> <p>&lt;課題2&gt;について ①世界と日本の地域構成について関心をもち、単元の学習後も考えていきたいことについてまとめる。 ②単元の学習内容を振り返って、今後の学習や生活に生かしたいことについてWSなどにまとめる。</p>	○		<p>・世界と日本の地域構成について、単元で学習した内容を比較したり関連付けたりするなどして多面的・多角的に考察し、その特色を文章や図などでまとめている。</p>
		○	<p>①世界と日本の地域構成に関心をもち、課題を追究しようとしている。</p> <p>②自己の学習を振り返り、今後の学習や生活に生かすことを見いだしている。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度) 評定に用いる評価</p>	

**事例3**  
(pp. 19-20)

「指導と評価の計画」については、第1学年最初の単元ということを考慮して、単元の始めと終わり、小単元ごとのまとめの時間を取るなどの手立てを取った計画となっています。

なお、**学習改善につなげる評価**については、上記で設定した場面に限らず、随時実施し、生徒にフィードバックしました。また、**学習改善につなげる評価**を行う場面であっても、「十分満足できる」状況(A)に該当するような顕著な姿が見られる場合には、記録に残しておき、**評定に用いる評価**に加味して評価を行いました。

## 授業（指導と評価）

作成した単元の「指導と評価の計画」に基づいて、授業を行い、各観点の評価を行いました。次の事例1から事例3で、指導と評価の具体例を紹介します。

■事例1・・・「知識・技能」 学習改善につなげる評価（小単元1第4時） pp. 15-16

■事例2・・・「思考・判断・表現」 評定に用いる評価（小単元2第5時） pp. 17-18

■事例3・・・「主体的に学習に取り組む態度」 評定に用いる評価（単元のまとめ） pp. 19-20

## ④ 単元の観点ごとの総括

観点別学習状況の評価の総括について、「参考資料」に次のように示されています。

- ・ 単元を通して、観点ごとの実現状況が把握できる段階で記録に残し、総括的な評価の資料とします。
- ・ 評定に用いる評価では、次のように評価を行います。

A：「十分満足できる」状況      B：「おおむね満足できる」状況      C：「努力を要する」状況

- ・ 評定に用いる評価が「C」になる生徒には、その生徒の学習の実現状況が「B」になるように、必要に応じて、適宜、指導や支援を行うことが大切です。

## 7 中学校社会科における学習評価の事例

### 【事例1】キーワード…「知識・技能」における 「学習改善につながる評価」の具体的な例（小単元1 第4時）

#### 1 本時のねらい

世界の地域構成について、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目し、主な世界地図の特徴を理解する。

#### 2 評価規準（知識・技能）

本時の課題「様々な世界地図にはどのような特徴があるのだろうか」について、世界地図や地球儀の特徴を理解し、使用目的に応じた世界地図を選び、その理由を説明している。

#### 3 授業の概要

授業の導入では、なぜ世界地図には、様々な種類があるのかについて予想を立てさせ、本時の課題につなげました。グループで地球儀と世界地図とを比較させる活動を行い、主な世界地図の特徴をワークシートに記述させました。記述したことを基に、クラスで話し合い、地球儀と世界地図の違いやそれぞれの地図の特徴について共有しました。授業のまとめでは、資料4のワークシートに示した課題について記述させました。

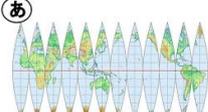
ここでは、使用目的に応じた世界地図を選択し、その理由を適切に記述することができたかについて、学習改善につながる評価を行いました。

地図Aを見ると、日本から、東に進むと、ワシントンD.C.（アメリカ）があることが分かるね。



花子

花子さんの意見には、誤りがあるので、訂正してあげたいと思います。下の地図あ、い、うのいずれかを使って、(i) 日本の東にあるのはどこか、(ii) そう考えた理由の2点をふまえて、花子さんに分かりやすく説明しましょう。





資料4 ワークシートに示した課題

#### 4 判定基準

おおむね満足できる状況（B）	③の地図を選択し、理由として中心からの正しい距離と方位が正しいことを記述している。また、日本の東にある都市を「ブエノスアイレス」と記述している。
----------------	--

#### 【「おおむね満足できる」状況（B）の例】

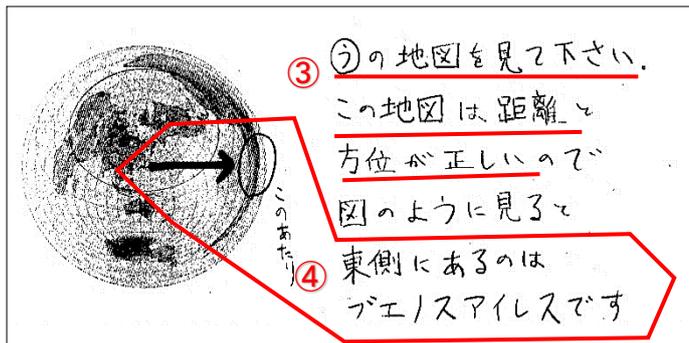
##### 生徒Xの記述

花子さんの地図では、正しい方位は分かりません。中心からの方位や距離が正しいのは、②の地図です。これを使うと、日本の東にあるのは、ブエノスアイレスです。

下線部①では、世界地図の特徴を踏まえて、③の地図を選択し、その理由を文章で記述することができています。加えて、下線部②では、③の地図を正しく読み取ってブエノスアイレスを記述していることが分かるため「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。



## 生徒Yの記述



下線部③では、②の地図を選択し、その理由を文章で記述できています。加えて、枠④では、ワークシートの地図に矢印を記述するとともに、ブエノスアイレスと記述していることから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。



## 【「努力を要する」状況（C）の例と指導の手立て】

	「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の具体的な例	「努力を要する」状況（C）と評価される生徒への指導の手立ての例
生徒Z	⑤の地図を選択し、ブエノスアイレスの都市名を記述できているが、⑤の地図を選択した理由を記述できていない。	それぞれの地図の特徴についての教科書の記述を確認させた上で、それを基にして⑤の地図を選んだ理由を記述するように促しました。
生徒V 生徒W	㊸ または ㊹ の地図を選択している。	㊸を選んだ生徒Vには、教科書を基に、主な世界地図の種類と名称を確認させた後、地球儀と比較する活動を再度行わせて、⑤の地図の特徴を記述するよう助言しました。 ㊹を選んだ生徒Wには、㊹の地図では東側にワシントンD.C.が見えることを教師と一緒に確認した上で、地球儀を使って方位の見え方の違いを比較する活動を行わせました。その後、⑤の地図の特徴を記述するよう助言しました。
生徒R	⑤の地図を選択し、その理由を記述できているが、ブエノスアイレス以外の都市名を記述している。	教師と一緒に⑤の地図の特徴を口頭で確認した上で、再度、問題について考えるよう促しました。

## 「努力を要する」状況（C）と評価された生徒に対する指導の補完

- ☞ 生徒Zについては、手立てを取った結果、口頭で世界地図の特徴を答えることができたため、その内容をワークシートに記述するよう促しました。そして、この時間は暫定的に「おおむね満足できる」状況（B）と捉え、その後「小単元1 第5時」で行った世界地図の種類を活用するミニテストの記述内容を踏まえて、最終的に「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。
- ☞ 生徒Vと生徒Wについては、手立てを取った結果、教科書の記述を基にして、ワークシートに課題の答えを記述することができたため、この時間は暫定的に「おおむね満足できる」状況（B）と捉えました。ただし、学習の定着状況については引き続き気を配り、「おおむね満足できる」状況（B）となるように、必要に応じて指導や支援を行いました。

【事例2】キーワード…「思考・判断・表現」における  
「評価に用いる評価」の具体的な例（小単元2 第5時）

1 本時のねらい

日本の地域構成について、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。

2 評価規準（思考・判断・表現）

小単元の学習課題「ALTの先生に、日本の位置と領域の特徴を伝えるには、どのように説明すればよいだろうか」について、周辺の海洋や国土を構成する島々の位置、領土をめぐる問題などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。

3 授業の概要

授業の導入では、小単元の学習内容を振り返らせました。その上で、大まかに日本地図を書かせ、そこに学習した内容を書き加えさせて、小単元の学習内容をまとめさせる活動を行いました。授業のまとめでは、小単元の学習課題「ALTの先生に、日本の位置と領域の特徴を伝えるには、どのように説明すればよいだろうか」についてワークシートに記述させました。

ここでは、ブラジル出身のALTの先生に日本を紹介することを通して、小単元での既習事項に着目し、多面的・多角的に考察し、表現できたかについて、**評価に用いる評価**を行いました。第1学年の最初の単元であることを考慮し、ALTの先生の母国であるブラジルと比較・関連するという身近で分かりやすい方法を通して、様々な立場や視点から多面的・多角的に考察できているかを見取りました。

4 判定基準

<p>おおむね満足できる状況（B）</p>	<p>日本の地域構成の特色を、国土や周辺の海洋、国土を構成する島々、領域の範囲とその変化、領土をめぐる問題などに着目し、ブラジルとの比較、関連を通して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
-----------------------	---

【「おおむね満足できる」状況（B）の例】

生徒Rの記述

ALTの  先生に、日本を紹介しよう！

先生へ。日本の紹介をします。日本は、北緯20度から50度くらいの間にあって、ブラジルから見ると地球の裏側にあります。⑤領土は日本より⑥ブラジルが22倍も大きいです。でも海洋国で島がたくさんあるので、領海と経済水域はとても広く、先生の国よりも大きいです！（\*）沖ノ島島などでは、工事をしてなくならないように守っています。ただ、領域が広いので、⑦北方領土や尖閣諸島などでは、ロシアや中国との領土問題も起きています。ブラジルでも領土問題が起きていたりするのですが。

着目した項目にチェックを付けよう	
<input checked="" type="checkbox"/> 国土、海洋、島々の位置	<input checked="" type="checkbox"/> 領域の範囲とその変化
<input checked="" type="checkbox"/> 領土をめぐる問題	
<input checked="" type="checkbox"/> 多面的・多角的な視点	<input checked="" type="checkbox"/> 相手に伝えるための工夫
<input checked="" type="checkbox"/> ブラジルとの比較	<input type="checkbox"/> 伝える工夫(図や表など)

←生徒による「自己チェック表」

下線部⑤では「国土の位置」、下線部⑥では「領域の範囲」、下線部⑦では「領土をめぐる問題」を、それぞれブラジルと比較、関連付けて記述することができます。このことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。



【「努力を要する」状況（C）の例と指導の手立て】

	「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の具体的な例	「努力を要する」状況（C）と評価される生徒への指導の手立ての例
生徒 S	<p>日本は、東経122度から154度の間、南北はおよそ北緯20度から46度の間に位置しています。周りの海は、日本海、太平洋、オホシツクシ海、東シナ海に囲まれた島国です。端の島は、えとろふ島、南島島、よばぐに島、沖ノ島島です。竹島は日本の領土ですが、韓国が不法に占拠しています。他にも、北方領土はロシア、せんかく諸島は中国と争っています。問題になります。</p> <p>3項目の学習内容（『国土、海洋、島々の位置』『領域の範囲とその変化』『領土をめぐる問題』）について記述することはできているものの、ブラジルと比較、関連付けることを通して、多面的・多角的に表現することができていない。</p>	<p>「自己チェック表」の項目を確認させた上で、小单元「世界の地域構成」で学んだブラジルに関する事柄のうち、日本と比較しやすい項目はどれかを尋ね、ワークシートに記述するように促しました。</p>
生徒 T	<p>日本は、およそ東経120度から150度の間、北緯20～50度の間にあります。面積は38万km<sup>2</sup>で領土は小さい国です。本州、北海道、九州、四国からできています。</p>  <p>3項目の学習内容のうち、『国土、海洋、島々の位置』について記述することができているものの、他の項目について十分に記述することができていない。</p>	<p>「領土をめぐる問題として、どんなことを学んだのかな」と尋ね、小单元「日本の地域構成」で学んだ内容をいくつか想起させた上で、「自己チェック表」の項目の中で書きやすい内容から記述するよう助言しました。</p>
生徒 U	<p>考えが進まず、記述することができていない。</p>	<p>教師と一緒に、ワークシートと教科書で小单元の学習内容を確認しました。日本の位置に関する記述に着目させ、生徒が理解している部分を確認した上で、その部分を基に記述するよう助言しました。</p>

「十分満足できる」状況（A）については、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときであり、多様な状況が考えられます。

「努力を要する」状況（C）と評価された生徒に対する指導の補完

- ☞ 生徒Sについては、手立てを取った結果、ブラジルと日本の位置関係を緯度と経度を用いて口頭で表現したため、ワークシートに記述させました。また、生徒Tについては、手立てを取った結果、領土問題として北方領土について挙げたため、ワークシートに記述させました。これらのことから両者を暫定的に「おおむね満足できる」状態（B）と捉え、本单元の定期テストでの「思考・判断・表現」の記述内容を踏まえて、最終的に「おおむね満足できる」状態（B）と判断しました。
- ☞ 生徒Uについては、教師とのやりとりを通じて、教科書を見ながら「日本の地域構成」についての学習内容を記述するよう促しました。この時点では、学習課題の解決に向けて、基礎的な知識・技能の定着に課題が見られたため、指導や支援を継続的に行いました。

【事例3】 キーワード…「主体的に学習に取り組む態度」におけるワークシートを用いた「評定に用いる評価」の具体的な例（単元のまとめ）

1 本時のねらい

- ・単元を貫く問いについて、これまでの学習内容を踏まえて、世界と日本の地域構成の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・単元を通して学んだことや自らの学習過程を振り返るとともに、次の単元の学習への見通しを立てる。

2 評価規準（主体的に学習に取り組む態度）

- ・世界と日本の地域構成に関心をもって課題を追究しようとしている。（※「よりよい社会の実現を視野に、課題の解決に主体的に取り組む態度（p.20）」として見取ります）
- ・自己の学習を振り返り、今後の学習や生活に生かすことを見いだしている。（※「自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む状況(p.20）」として見取ります）

3 授業の概要

授業の導入では、「世界と日本の地域構成」の学習内容を振り返らせました。その後、単元の学習内容をクラスで話し合い、単元を貫く問いへの答えを、資料5の「思」の部分に記述させました。授業のまとめでは、単元の始めに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、「態」-ア、態」-イの部分に記述させ、下記の(1)、(2)、(3)で示す方法で、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行いました。

(1) 「態」-アの部分に記入させた「単元の学習後も自分で追究していきたいこととその理由」の記述内容を基に「よりよい社会の実現を視野に、課題の解決に主体的に取り組む態度」の評価を行いました。

(2) 「態」-イの部分に記入させた「今後の学習や生活に生かしたいこと」の内容を基に「自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む状況」の評価を行いました。その際、小单元ごとに記述してきた「態」-ウ「学習を振り返って気付いたこと」の記述内容も加味しました。

(3) 上記の(1)、(2)の内容を総合して、評定に用いる評価を行いました。その際、振り返りシートの記述内容を基に、単元での学習改善につなげる評価における毎時間の見取りや生徒の顕著な姿等を加味して、総合的に評価を行いました。

資料5 振り返りシート（p.22 参照）

#### 4 判定基準

「おおむね満足できる」状況 (B)	よりよい社会の実現を視野に、課題の解決に主体的に取り組む態度	学習した内容を踏まえて、これからも自分自身で追究していきたいこと、これからも考えていきたいこと等を挙げ、その理由や意義を記述している。(「態」-アの部分の記述内容を基に評価)
	自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む状況	学習した内容やそれに関することから、今後の学習や生活に生かそうとすることを見いだしている。(「態」-イの部分の記述内容を基に、「態」-ウの部分の記述内容を加味して評価)

上記の二つが、いずれも「おおむね満足できる」状況 (B) の場合、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を「おおむね満足できる」状況 (B) としました。

#### 【「おおむね満足できる」状況 (B) の判断につながる要素】

- (1) 「態」-アの記述例：「よりよい社会の実現を視野に、課題の解決に主体的に取り組む態度」

最近⑧経済水域に関して他の国とのトラブルが起きているので、これからもニュースなどで注目していきたい。…⑨領域のことをきちんと知っておくことは、日本や世界について考えていく上で、前提となるものだと思うので。

下線部⑧では、単元終了後も、関心をもって追究していきたいことを記述しています。下線部⑨では、それを追究していく意義を記述しています。



世界の国の名前や国旗には、様々な意味や願いが込められていることが分かった。⑩他の国についても、自分で調べてみたい。…⑪今から、外国の人と接する機会も増えると思うから、たくさんの国について知っておくのは大事だと思う。

下線部⑩では、単元終了後も、関心をもって追究していきたいことを記述しています。下線部⑪では、そのように考えた理由を記述しています。



- (2) 「態」-イの記述例：「自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む状況」

まとめの時間に、日本と世界の姿をまとめるときに、⑫〇〇さんのアドバイスを基にして、地図も描き入れてみたら、とても見やすくなったので、今度何かをまとめるときも、絵や図を入れてまとめたい。

下線部⑫では、単元の学習を振り返る中で、友だちなどから学んだことを思い出し、それを別の学習場面でも生かして取り組もうとしていることが分かります。



世界地図にはたくさんの種類があることが分かったので、⑬これから地図を見たときはどんな目的で使われる地図なのか、考えてみたいと思った。

下線部⑬では、単元の学習で学んだ内容を生活に生かしていこうとしていることが分かります。



「十分満足できる」状況 (A) については、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときであり、多様な状況が考えられます。

【「努力を要する」状況（C）の例と指導の手立て】

	「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の具体的な例	「努力を要する」状況（C）と評価される生徒への指導の手立ての例
生徒 M	態①の部分に、「これからも自分自身で追究していきたいこと」を記述することはできているものの、その理由や意義を記述することができていない。	「なぜ、それを考えていきたいと思ったのかな」と尋ね、それを振り返りシートに記述するように促しました。
生徒 N	態①の部分に、「これからも自分自身で追究していきたいこととその理由」を記述することができていない。	「学習内容の中で自分の生活に関係のありそうなものは無かったかな」と尋ね、一緒に教科書やワークシートの内容を確認させました。その上で、書きやすい内容を振り返りシートに記述してみるよう助言しました。
生徒 O	態①の部分に、記述することができていない。ただし、小単元で記入している態②の内容からは、前の時間を振り返るなど、粘り強く学習に取り組んでいる姿が認められる。	態②の部分に記述されている内容を参考にして、記述を進めるように助言しました。さらに「単元の導入」と「単元のまとめ」における自分の記述内容を比べさせ、「学習を進める中で、こうすればもっと良かったと思ったこと」などを考えて、振り返りシートに記述してみるよう助言しました。
生徒 P	態①の部分に、記述することができていない。加えて、小単元で記入している態②の内容から、粘り強く学習に取り組んでいる姿が認められない。	「単元の中で、どのようなことが印象に残っているかな」と尋ね、教科書の内容やワークシートの記述を、一緒に振り返りました。その上で、級友がどのように記述しているかを見よう促し、それを参考にして、自分でも振り返りシートに記述するよう助言しました。

「努力を要する」状況（C）と評価された生徒に対する指導の補完

- ☞ 生徒Nについては、手立てを取った結果、口頭で「いろいろな国の人口について考えていきたい。日本は人口が減少しているけど、他の国はどうか気になるため」と答え、その内容をワークシートに記述することができたため、態①の部分について、「おおむね満足できる」状況（B）と評価を修正しました。
- ☞ 生徒Oについては、手立てを取った結果、これまでに振り返りシートに記述した内容やワークシートにまとめていたことを基にして記述が進んだことから、態①の部分について、「おおむね満足できる」状況（B）と評価を修正しました。
- ☞ 生徒Pについては、手立てを取った結果、級友のワークシートや教科書を見て、振り返りを記述することができました。しかし、振り返りシートの記述内容を総合すると、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組むことへの意識が低いと考えられることから、指導や支援を継続的に行いました。特に「小単元のまとめ」における記述内容を確認し、必要に応じて支援を行いました。



Q 1 「知識」, 「技能」ごとに分けて 評定につなげる評価 として記録に残した場合, それらを「知識・技能」の観点に総括するということがよいでしょうか。またその場合, 知識と技能に軽重をつけてもよいでしょうか。

A 学習指導要領において, 指導内容が知識と技能で分けて示されている場合(例えば, C 日本の様々な地域 (1)地域調査の手法 など)には, 個別に「知識」, 「技能」で記録したものを, 「知識・技能」の観点に総括していくという方法が考えられます。

また, 学習指導要領の記載や実際の指導内容により, 指導や評価において知識と技能に軽重を付けることは考えられます。しかし, 知識又は技能の一方に偏ることなく, 年間を通じて知識及び技能をそれぞれバランスよく育成すべきことに留意する必要があります。

Q 2 「思考・判断・表現」の観点をペーパーテストで見取る場合, どのような評価問題が考えられますか。

A 「思考・判断・表現」の観点を見取る問題としては, 例えば, 学習した知識を活用し, 資料などを基に思考する問題(参考資料 事例1 問題例 i), 資料から読み取った情報を概念と結び付ける問題(問題例 ii), 知識や概念を活用して, 別の場面で活用する問題(問題例 iii)などが考えられます。

これら「参考資料」に掲載された諸問題例をはじめ, 佐賀県小・中学校学習状況調査問題, 佐賀県の入試問題, 中学校卒業程度認定試験の過去問題等の中にも参考にできる問題が多数あります。工夫されたペーパーテストと授業ワークシート等を組み合わせることによって, 生徒の学習の達成状況を多面的に把握し, 妥当性と信頼性の高い評価の実現につながると考えられます。

Q 3 各観点の評価の総括は, 学期末に行うことが適当ですか。

A 各観点の評価の総括については, 学期末だけではなく, 小単元や単元ごと, 学年末などに行うことが適当だと考えられます。ただし, 学期末等において通知表に成績を記載する際には, 3観点全ての評価情報がそろっている必要があるため, 計画的に評価を行っていくことが必要です。

中学校社会科の単元(中項目)は, 数十時間に及ぶものも多く, 学期をまたぐものもあります。このため, 例えば, 中項目「世界の諸地域」を単元, 小項目「アフリカ州」を小単元と設定し, 小単元ごとに評価を行うなど, 各学校の実情に合わせた評価と指導の計画を立てることが大切です。

## 参考文献

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説 社会科編』 平成29年 東洋館出版社
- ・文部科学省 『幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』
- ・文部科学省 『H29・30年度改訂の学習指導要領における学習評価に関するQ&A』 令和元年
- ・国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 社会】』 令和2年 東洋館出版社
- ・国立教育政策研究所 『学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編』 令和元年
- ・佐賀県教育センター 『新学習指導要領における学習評価の進め方(中学校 社会科)』 平成24年
- ・田中 耕治編 『学びを変える新しい学習評価 資質・能力の育成と新しい学習評価』 令和元年 ぎょうせい
- ・田中 博之 『「主体的・対話的で深い学び」学習評価の手引き』 令和2年 教育開発研究所
- ・藤野 敦 「3観点の学習評価の考え方と留意点 中学校」『社会科教育 12月』 令和2年 明治図書
- ・佐野金吾 『中学校新学習指導要領と学習評価—基本方針と実施に向けての留意点』 2020年